

JRC/全日本ラリー選手権

第1戦 ラリーオブ嬬恋 2023年2月3日~5日

2023年の全日本ラリー選手権が群馬県嬬恋村を舞台に開幕！

スバルWRX STiを駆る鎌田卓麻選手・松本優一選手組（JN1クラス）が総合優勝！



GR ヤリスを駆る奴田原文雄選手・東 駿吾選手組が JN2 クラスで2位表彰台！

ライティングシステム&スノーワイパーを装備した PIAA サポートチームが躍進



■概要/Outline

国内外のレースシーンで多くのチームをサポートする PIAA は、ラリー競技において WRC（世界ラリー選手権）では TOYOTA GAZOO Racing WRT とのオフィシャルパートナーシップを継続中のほか、数多くのワークsteamをサポートしてきた。国内最高峰シリーズの JRC（全日本ラリー選手権）においても 1982 年に横浜ゴムとタスカエンジニアリングとのパートナーシップに参画し ADVAN-PIAA Rally Team を結成して以来、アドバンのワークスドライバーとともに数々のタイトルを獲得してきた。





ラリー競技への取り組みは 2023 年も多くのサポートチームおよびサポートドライバーが各クラスで活躍。2月3日～5日に群馬県嬭恋村を舞台に開催された第1戦「Rally of Tsumagoi」でもPIAAサポートユーザーが素晴らしい走りを披露した。

なかでも抜群のパフォーマンスを披露したのが、「SUBARU RALLY CHALLENGE KAMADA」にてスバルWRXを駆る鎌田卓麻選手・松本優一選手組で、PIAAのHIDライティングシステムおよびスノーワイパーを装着し好タイムを連発。最後は余裕のクルージングを披露し、2020年の丹後ラリー以来、実に4年ぶりに勝利を獲得した。



一方、「KAYABA Rally Team」のGRヤリスでJN2クラスに参戦した奴田原文雄選手・東駿吾選手組もPIAAのLEDバーランプおよびスノーワイパーを装着し constants な走りを披露。惜しくも勝利には届かなかったものの、2位入賞で表彰台を獲得した。



そのほか、開幕戦のRally of Tsumagoiはスキップしたものの、TOYOTA GAZOO RacingもPIAAのサポートチームで、第2戦「新城ラリー」より2台のニューマシンでJN1クラスに参戦する予定との事。勝田範彦選手・木村裕介選手組が国際規定モデル、GR YARIS Rally2のプロトタイプ「GR YARIS WR Concept」でJN1クラスに参戦するほか、同チームメイトの眞貝知志選手・安藤裕一選手組も次世代スポーツ自動変速機、DATを搭載した「GR YARIS GR4 DAT Rally」で参戦し上位争いを左右することだろう。

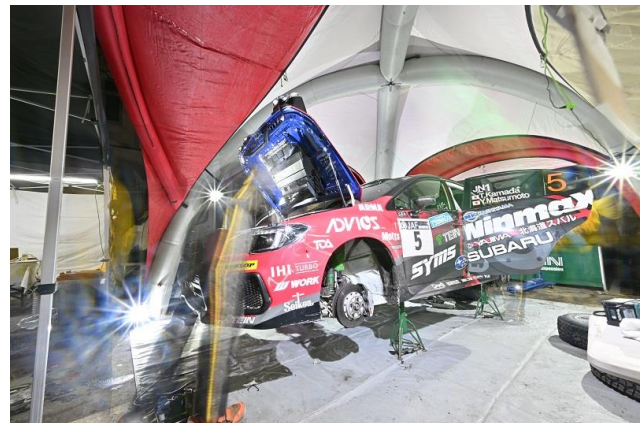
このように2023年のJRCでもPIAAサポートユーザーは注目の存在で、各クラスでタイトル争いを展開するに違いない。

■レポート/Report

2023年の全日本ラリー選手権が早くも開幕し、2月3日～5日、群馬県嬭恋村を舞台に第1戦「Rally of Tsumagoi」が開催された。同ラリーはシリーズ唯一のスノー&アイス戦で2019年の大会以来、実に4年ぶりに復活。4日にはナイトステージが設定されたことから明るく見やすいライティングシステムが必須となるほか、4日の夕方からは時折、降雪があったことからワイパーブレードのパフォーマンスも重要となる一戦となっていた。

残念ながら2023年の大会は積雪量が不足し、雪壁の高さも低かったものの、それでも各チームはスノーステージで激しいアタックを披露。そのなかで幸先の良いスタートを切ったのが、SUBARU RALLY CHALLENGE KAMADA より最高峰のJN1クラスに参戦した鎌田・松本選手組だった。PIAAのHIDライティングシステムおよびスノーワイパーを装着したスバルWRXを武器にSS1でベストタイムをマーク。その後も5回のセカンドベストをマークするなどコンスタントな走りを披露し、4日のデイ1をトップでフィニッシュした。

鎌田・松本選手組の勢いは翌5日のデイ2も健在で、SS8およびSS9でトップタイムをマークし、後続を引き離す。その後はクレバーな走りでポジションをキープ。「今回は優勝を狙っていましたが。クルマのフィーリングが良かったので、初日のSS1と2日目のSS8とSS9だけプッシュしました。今年からスバル勢は新体制ですが、その開幕戦で勝てたし、個人的にも2020年の丹後ラリー以来の優勝なので嬉しいですね」と語るように鎌田・松本選手組（JN1クラス）が総合優勝を獲得した。



一方、JN2クラスでは自身のチーム「NUTAHARA Rally Team」で参戦していた奴田原文雄選手がこのラリーオブ嬭恋のみ「KAYABA Rally Team」でエントリー。マシンはPIAAのLEDパーランプおよびスノーワイパーと今回より新たにPIAA製のヘッド&フォグライト用融雪ヒーターを装着したトヨタGRヤリスで安定した走りを披露していた。

国内のスノーラリーでは4WDマシンに対してスタッドタイヤの装着が禁止されていることから、多くのユーザーがグリップ性能に勝るダンロップ製のラリー競技用スタッドレスタイヤを装着していたが、横浜ゴムのサポートドライバーである奴田原選手は横浜ゴムにラリー競技用スタッドレスタイヤの設定がないことから通常の一般車用スタッドレスタイヤでエントリー。そのため、厳しい戦いを強いられたものの、それでも奴田原選手はナイトステージとして設定されたSS7を含めて、2回のSSウインを獲得するなど素晴らしい走りを披露し、通常のスタッドレスタイヤでは完走すら困難なコースコンディションにも関わらずJN2クラスで2位入賞を果たし、そのドライビング技術を証明した。



このように特殊なスノーラウンドとして開催された開幕戦の Rally of Tsumagoi より素晴らしい走りを披露した PIAA サポートユーザーが、第 2 戦以降もタイトル争いの主導権を握るに違いない。

開幕戦の Rally of Tsumagoi はスキップしたものの、トヨタのワークスチーム、TOYOTA GAZOO Racing は第 2 戦の「新城ラリー」より 2 台体制で JN1 クラスに参戦する予定。しかも、勝田・木村選手組が国際規定モデル、GR YARIS Rally2 のプロトタイプ「GR YARIS WR Concept」で、同チームメイトの眞貝・安藤選手組も次世代スポーツ自動変速機、DAT を搭載した「GR YARIS GR4 DAT Rally」で参戦するなど 2 台揃ってニューマシンになるようだ。

また SUBARU RALLY CHALLENGE KAMADA の鎌田・松本選手組も Rally of Tsumagoi は従来モデルの VAB 型スバル WRX STi で勝利を飾ったが、こちらも S4 をベースにニューマシン「SUBARU WRX RALLY CHALLENGE 2023」を開発中で、シーズン中盤にはマシンをスイッチする見込みだ。

両モデルともにニューマシンとなるだけに初期マイナートラブルも懸念されているが、抜群のパフォーマンスが期待されているだけに、JN2 クラスに挑む奴田原・東選手組を含めて 2023 年も PIAA のサポートチームおよびサポートドライバーが各クラスでタイトル争いを支配することだろう。

■ユーザーの声/User's Voice

奴田原文雄選手

KAYABA Rally Team/ドライバー

マシン：TOYOTA GR YARIS



「今回、初めてのマウントレイアウトの LED バーランプを装着して実戦のナイトステージを走りましたが、予想以上に明るいですね。全体的に照射してくれるうえに、遠くもしっかり照らしてくれるし、色もナチュラルで雪道でも見やすいので走りやすかった。スイッチを入れてもアイドリングは変わらないので出力にも影響していないと思います。2段レイアウトで多少、ケースは大きいけれど、以前の HID ランプポッドよりは小さいですからね。とてもいいと思います」

<https://www.piaa.co.jp/4rin/light/>

■PHOTO GALLERY



HID ライティングシステム



雪用ワイパー (FLAT SNOW)





撥水スノーワイパー（FLAT SNOW WIPER）

寒冷地でワイパーが凍らず性能発揮（極寒地は例外あり）

雪用ワイパーHP

<https://www.piaa.co.jp/category/4rin/wiper/wiper-snow/#wiper-snow-sub01>

融雪ヒーターHP

<https://www.piaa.co.jp/category/4rin/safety/>



ヘッド&フォグライト用融雪ヒーター

気温+5度以下で熱線が熱くなり LED ライトについた雪を融かします

